



SKYSEF2021 | (21世紀の中高生による国際科学技術フォーラム) 北高理数科2班が受賞!

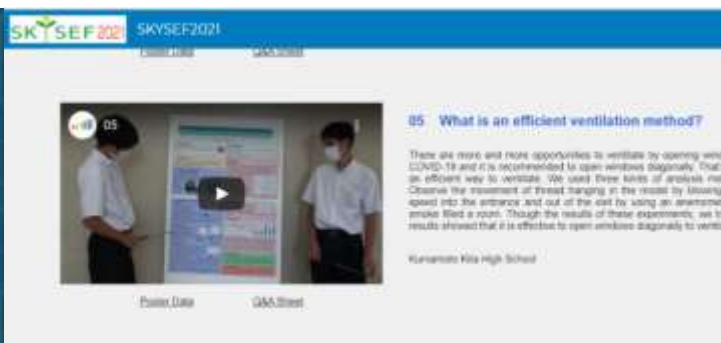
SKYSEF2021 (21世紀の中高生による国際科学技術フォーラム)に参加し、本校から3つの班が英語で課題研究のポスター発表を行いました。

その結果、本校ではPhysics (物理班)による発表「What is an efficient ventilation

method? (効率の良い換気の方法とは)」がExcellence Award (優秀賞)に、Biology (生物班)による発表「Study about UV absorption of Nostoc commune (イシクラゲの紫外線吸収に関する研究)」がEncouragement Award (奨励賞)を受賞

することができました。

3年理数科は、これまでの課題研究の成果を全班全員が英語で発表を行っています。外部の英語での発表会にも複数の研究班が積極的に参加し、評価を受けることができました。



SKYSEF2021のHPより

日本金属学会2021年秋季 (第169回) 「高校生・高専学生ポスター発表会」 普通科化学班 優秀賞受賞!

日本金属学会2021年秋季(第169回)大会に、本校から3年普通科F組の化学班が「生分解性プラスチックの生成と分解」をテーマにオンライン上でポスター発表をし

しました。その結果、上位14校に選ばれ、優秀賞を受賞することができました。

発表会では、大学や企業の方々から多くの助言を受けることもできました。



SSH NEWS

オンラインによるハイフレックス・モデルの アクティブ・ラーニング実践

分散登校中の学びの保障の一環として、生徒双方向の学習も可能なオンラインでの授業を生物の授業で実践しました。

教員用配信セットは図1のようになっており、黒板と投影した映像を配信できるようになっています。生徒は、オンライン、教室いずれの参加の場合でも、一人一台端末

Chromebookをオンライン会議システムにつなぎました。2クラス同時に授業を行い、教員2名が各教室に付き、一人が説明をしている際に、もう一人が出席確認やオンラインでフォローをしました。生徒は、ペアやグループでの学習を通常時と同じ要領で進めることができました。

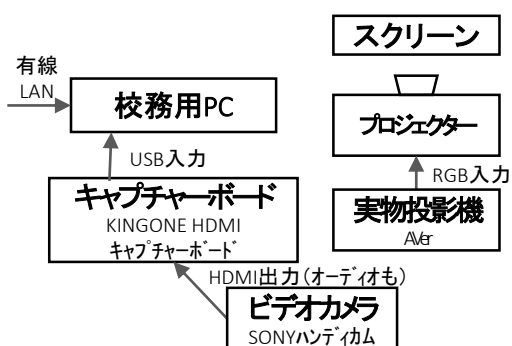


図1 教員用配信セット



図2 じゃんけん後、教科書を互いに説明する様子
(右上)解説時の生徒Chromebookの画面



図3 KP法の大きな文字は配信にも適している

ハイフレックス・モデルとは？

北陸大学の杉森公一氏の名古屋大学の公開セミナーの資料より抜粋して紹介します。(2021.8.26「ハイフレックス授業の可能性-授業設計・教育学習方法の革新と包摂-」)

HybridとFlexibleの略であり、ハイフレックス・モデルには、次の4つの原則が挙げられている。

- ① 学生による選択、② 同質性、③ 再利用性、④ アクセス可能性

このモデルは、柔軟性があり多くの人にとって魅力的で、教員は対面とオンラインの授業を同時に行います。学生は受講場所をキャンパスか、自宅かを選びます。

ただし、このモデルは、同期型学習を重視する傾向があり、TA等の支援や、意図的にデザインされた教室環境、そして学生・教員の多大な忍耐が必要となります。